

教員推薦図書 2022年6月

推薦教員	幼児教育科 准教授 郡司 敦 先生	【推薦コメント】 学びに「遊び」は必要なのか？ こう問われたら、多くの人が答えに迷うのではないだろうか。 私は子どもの頃、よく遊んだ。学校が終わると、友達と待ち合わせて、ケードロやラケットベース、たまにサッカーや野球をする。学校の校庭はもちろん、近所の公園にも自転車で繰り出した。たまたま出会った知らない子と遊んだ。夕日が落ち、ボールが見えなくなっても遊んでいた。 この本を読むと、どうやったら楽しく遊べるかを考え、友達と走りまわった子どもの頃の日々が、なぜか「学び」に関係していると思えてくる。 人類の99%は農業が始まる以前、狩猟採集民族だった。遊びを通して集団生活に必要なルールや生きるための知恵を学んだ。対照的に現代の多くの学びの場は、遊びを重要視していないため、大事な何かが失われているのではないかと考えさせられる。 この本にある印象的な言葉をいくつか挙げる。 「遊びは自己選択的で自主的」 「何をしなければならないのかではなく、何をしたいのか」 「遊びがプレーヤーを引きつけ、魅了するのは、プレーヤー自身が考え出したか、受け入れた規則に基づいて行われるからです」 「自分が選択した事をしている人は、強制されてやらされていると感じる人に比べて、より完璧に、より効率的に仕事をやり遂げるという結果を示しています。強制されると、必要最低限しかやらなくなるようです」 遊びが学びに欠かせないわけを知りたい人は、是非、読んでみて下さい。
書名	遊びが学びに欠かせないわけ ～自立した学び手を育てる～	
著者名	ピーター・グレイ 著 吉田新一郎 訳	
出版社	築地書店	
請求記号	370.4 / Gra	
資料ID	901119893	